

「マタイ19章」

イントロ:

1. 文脈を確認する。
 - (1) イエスの公生涯で最後の年に入っている。
 - (2) イエスは弟子訓練に焦点を合わせている。
 - (3) ヨルダンの向こうにあるユダヤ地方:ペレヤ
2. 人との出会いを通したイエスの教え:教室の教えではない。
 - (1) 離婚についての教え
 - ①パリサイ人たちとの出会い
 - (2) 永遠のいのちについての教え
 - ①子どもたちとの出会い
 - ②金持ちの青年との出会い
 - ③ペテロの質問との出会い
3. 基本的に重要なことが認識されていないということがある。
 - (1) 水:日本人は、水の重要性をようやく認識し始めた。
 - (2) 永遠のいのち:年を取ると「死後のいのち」について考え始める。
(例話)『イスラエル・トゥデイ』誌3月号の記事「放蕩息子の帰郷」
 - ①苦難は、人を神探求の旅に駆り立てる。
 - ②世俗的イスラエル人は、宗教ではなく、魂の満たしを求めている。
 - ③この傾向が自然発生的に起こっている。
4. きょうの箇所は、極めて現代的な内容を扱っている。
 - (1) 離婚について簡単に扱う。
 - (2) 永遠のいのちについて詳細に論じる。

現代人が知るべき基本的に重要な情報について

I. 離婚についての教え

1. 場所:ペレヤ
 - (1) ヘロデ・アンティパスの領地
 - (2) 彼は、兄弟ピリポの妻ヘロデヤと結婚した。
 - (3) それを糾弾したバプテスマのヨハネの首をはねた。
 - (4) 妻ヘロデヤがこれを要求した。

2. パリサイ人たちの質問

- (1) 「何か理由があれば、妻を離別することは律法にかなっているでしょうか」
- (2) この質問をした動機
 - ①ヘロデヤを怒らせて、イエスを殺させるため
 - ②イエスに言いがかりをつけるため
- (3) 質問の背景:申命記 24:1 「何か恥ずべき事」とは何か。
 - ①ヒレル派は、それを広義に解釈していた。料理下手も離婚原因となる。
 - ②シャマイ派は、それを狭義に解釈していた。不貞のみが離婚原因となる。

3. イエスの答え

- (1) 神は本来、創造の秩序の中で離婚というものを想定していなかった。
- (2) モーセが離婚状を渡せと命じたのは、命令ではなく許可。
- (3) 離婚理由として認められるのは「不貞(姦淫)」しかない(シャマイ派と同じ)。
- (4) 妻の姦淫だけを問題にするのではなく、夫の姦淫の罪も問題にすべきである。
 - ①ユダヤの律法では、夫だけが妻を離別することができた。その逆はない。
 - ②今でもイスラエルでは、女性から離婚を申し出ることは許されていない。
- (5) 理想は、赦しと和解によって結婚を継続すること。

4. 弟子たちの反応

- (1) そんなことなら結婚しないほうがまだ。

5. イエスの答え

- (1) 独身でいられるのは、生まれつき性的能力を欠いている者か、
- (2) 人為的に去勢された者か、
- (3) 独身の賜物が与えられた者だけ。
- (4) 独身でいることも結婚することも、ともに神からの召しである。

II. 永遠のいのちについての教え

イントロダクション:ヨハネ3:16

- (1) 永遠のいのちの二面性
 - ①時間的要素と、質的要素がある。
 - ②すでに成就したいのちであると同時に、やがて完成するいのち。

1. 子どもたちとの出会い

- (1) イエスに近づく子どもたち
- (2) 彼らを叱る弟子たち
- (3) イエスの教え
 - ①マタイ 18:1～5 天の御国で評価される資質とは何か。
 - ②天の御国に入る条件は、子どものような信頼である。
- (4) 子どものような信頼を持っていない人の例として、次の話が出てくる。

2. 金持ちの青年との出会い

(1) 富に関するパリサイ派の理解

- ①裕福であることは、神の祝福を受けていることのしるし。
- ②裕福な人は、天の御国に最も近い。
- ③この青年(恐らく会堂管理者)は、裕福であるが永遠のいのちの確信がない。

(2) 青年の質問

- ①「尊い先生」(ルカ 18:18)
- ②「永遠のいのちを得るためには、どのような良いことをしたらよいのでしょうか」

(3) イエスの答え

- ①「尊い(良い)」というギリシア語
 - * アガソス(内面の尊さ)
 - * カロス(外面の美)
 - * この青年は、アガソスを用いている。
- ②ユダヤ教の習慣では、アガソスを人間に用いることはない。
- ③「良い方は、ひとりだけ」:神だけ。

(4) 良くある誤解を正す必要がある。

(例話)キリスト教史における悲劇は、聖書に対する無知と誤解から生じた。

- * 十字軍の蛮行。
- * 誤解の原因は、キリスト教からユダヤ的要素を抜き去ったこと。
- ①イエスは、ご自身の神性を否定したのではない。
- ②「あなたこそメシアであり、神です」と告白すれば、永遠のいのちを得たはず。
- ③しかし彼は、沈黙していた。
- ④そこでイエスは、モーセの律法に話題を振った。
- ⑤青年は、どの戒めですかと問う。

(5) イエスの回答

- ①最初は、モーセの十戒の後半部を引用。
- ②隣人愛の教えは、十戒には含まれていない。
- ③イエスは意図的に、人間関係に関する律法だけを示した。

(6) 青年は、それらの命令は守っていると答える。

(7) イエスの招き

- ①持ち物を売る:神への信頼の実践
- ②貧しい人に与える:隣人愛の実践
- ③わたしについて来なさい:イエスこそメシアであることを受け入れること。

- (8) 青年は悲しみながら去っていった。
- ① 祝福のしるしである富が、彼を神から遠ざける障害となっていた。
 - ② この事例は、業による救いを教えているのではない。
 - ③ 救いは、信仰により、恵みによる。

3. 弟子たちの質問との出会い

- (1) 金持ちが救われるのは、非常に難しい。
- ① 金が悪いのではない。
 - ② 神よりも金を信頼する人の心が悪い。
- (2) 「らくだが針の穴を通る」
- ① 当時の格言
 - ② 実際にそのような門があったわけではない。
 - ③ 裁縫に使う針。ルカでは手術用の針。
- (3) 驚く弟子たち
- ① パリサイ派の富についての神学が、広範囲に影響を与えている。
 - ② 金持ちでも救われるのが難しいとしたら、誰が救われるのか。
- (4) 神に不可能はない。
- (5) ペテロの質問
- ① 献身の報酬はどれほどかと問うている。
 - ② 動機が必ずしも正しいとは言えない。
- (6) イエスが語った3つの祝福の約束
- ① メシア的王国で12使徒は、イエスとともにイスラエル12部族を統治する。
 - * 異邦人諸国を統治するのは、教会時代の聖徒と患難時代の聖徒
 - ② イエスのために犠牲を払った者には祝福が約束されている。
 - * すべての信者に約束されている。
 - * 地上生涯において実現する。
 - * 物質的なものも含まれるが、強調点は霊的な祝福。
 - ③ 永遠のいのちが約束されている。
 - * すでに実現しているが、その成就是未来のこと。
- (7) 天の御国の原則:先のがあとに…
- ① 20章のたとえ話で、説明される。

結論

1. ヨハネ3:16
- (1) 神はご自身の責任を果たしている。
 - (2) 私たちには、信じるという責任がある。